

Lesson 18 「鎌倉幕府の執権政治」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

【北条氏の台頭】

- 頼朝の死後、その子〔1 **源頼家**〕が第2代将軍 (= 鎌倉殿) に就任
→ その実母である〔2 **北条政子**〕は源頼家の独裁を抑え込み、その祖父である〔3 **北条時政**〕ら
⇒ **13人の有力御家人による〔4 **合議制**〕**
- 北条時政は孫の頼家を伊豆の修善寺に幽閉し、頼家の弟である〔5 **源実朝**〕を第3代将軍 (= 鎌倉殿) に就かせる
- 北条時政の子である〔6 **北条義時**〕は、和田義盛を倒し侍所当に就任
→ **北条氏が鎌倉幕府の民政・軍事の要職を独占**
- 北条時政と北条義時によって確立された地位 = 〔7 **執権**〕
⇒ **のちに北条氏が代々世襲することとなる**

【承久の乱】

①承久の乱

- 京都では〔8 **後鳥羽上皇**〕が政治の実権を握り、**北面の武士**に加え、〔9 **西面の武士**〕を設置 … 院/朝廷の軍事を強化
- 1219 (承久元) 鎌倉 (鶴岡八幡宮) … 将軍: 源実朝が頼家の子である公暁により暗殺
⇒ **源氏将軍の血統断絶**
→ 摂関家 (藤原氏) 出身の〔10 **九条頼経**〕を鎌倉に迎え入れ、鎌倉幕府の将軍職に就かせる = 〔11 **摂家将軍**〕

- 1221 〔12 **承久の乱**〕 **京都** 院/朝廷 **VS** 幕府/御家人 **鎌倉**
→ 後鳥羽上皇が「義時追討」の宣旨
→ **北条政子が東国武士の結束を呼びかけ、わずか1ヶ月で京都を占領し幕府側が勝利**

②院/朝廷側の敗北

- 後鳥羽上皇は〔13 **隠岐**〕へ配流
… 土御門上皇は**土佐**へ配流 … 順徳上皇は**佐渡**へ配流
- 仲恭天皇は位を追われ、幕府の影響下に後堀河天皇が即位

③幕府の優位確立

- 幕府は承久の乱で上皇方についた貴族・武士の所領 3000 余ヶ所を没収
→ 幕府はその所領に新たに地頭を置く = 〔14 **新補地頭**〕 … (新補率法)
- 西国における幕府支配権の強化
→ **北条時房・北条泰時**を〔15 **六波羅探題**〕に任命する
京都での朝廷の動きを監視し、西国の御家人を統轄する

【執権政治】

①北条義時・北条泰時の政治

- 1223 (貞応2) 諸国に命じて〔16 **大田文**〕を作成させ、
→ 軍役などを課するさいの台帳とした
- 〔17 **北条泰時**〕が父の北条義時を継ぎ、執権に就任
- 北条時房を〔18 **連署**〕に任命し、執権の補佐役とする
- 政務に練達した御家人を選び、〔19 **評定衆**〕を設置
→ **執権・連署・評定衆による合議によって幕府の政策が決定される体制を整える**
- 遠江以東 15 か国の御家人による〔20 **鎌倉番役**〕が整備される (鎌倉警備)

②御成敗式目の制定

- 1232 (貞永元) 〔21 **御成敗式目**〕 (= **貞永式目**) を制定
→ 頼朝以来の慣例にのっとり、守護・地頭の任務や権限、訴訟手続きを定める
→ 女性の財産や養子、下人・所従の子などの処分については武家独自の規定
→ 式目を六波羅に送り、守護を通じて国々に徹底させる
→ **武家法の根本法典とされ、のちの室町幕府の法や戦国大名の分国法にも影響**

③北条時頼の政治

- 1246 (寛元4) 執権: 〔22 **北条時頼**〕
→ 前将軍の九条頼経を、陰謀の疑いで京都へ送還
- 1247 (宝治元) 三浦泰村一族を〔23 **宝治合戦**〕で一掃する
→ 北条氏の覇権が一層強固なものとなる
- 1249 (建長元) 〔24 **引付衆**〕を設置 → **訴訟の迅速化**
- 後嵯峨上皇の皇子である〔25 **宗尊親王**〕を鎌倉に迎え入れ、鎌倉幕府の将軍職に就かせる = 〔26 **皇族将軍**〕
- 1261 (弘長元) 儉約徹底と訴訟の公正/迅速化を命令 … 〔27 **関東新制**〕

北条時頼の治世に北条氏の覇権が確立

- 北条一族の権力争いも表面化し、〔28 **得宗専制**〕への動きが芽生えた
※ **北条時政を初代として、北条義時以後の嫡流の家柄 = 「得宗家」**